昭和十三年刊《新訂日臺大辭典》原序

新訂日臺大辭典の序

明治四十年三月本書の始めて刊行せらるゝや臺灣語に關する唯一の學術的辭書としてその價値を認められ又實用的のものとしても大いに世に行はれたりしも既に絶版となりて府内に殘本を存せず而も世の需要なほ絶えざるを以て再版に附するの要唱へらるゝに至れり然れども初版發行以來三十年を經過して時勢著しく進歩せし今日より見れば書中に採收せられたる四萬二千餘の言數にては甚しく不足を感ぜらるゝのみならず對譯にも修正を要するもの少からず何れより見るも改訂增補の上再版せざるべからずとの議一決せり是に於て昭和八年四月より本書の改訂に著手し拮据經營母語として十萬六千餘言を採收してそれぞれ適正なる對譯を施し之を整理してアよりシに至る五萬五百餘言を上卷に收め本年を以て梓に上するに至れり

之を初版に比するに啻に言數に於て倍量を增加せしのみならず譯語の適確なるに於ても長足の進歩をなせること疑なき所なりと雖不備の點亦少からざるを懼る此等は大方の是正を待ちて更に他日の補正を期せんとするものなり

本書の改訂に從事したるものは元臺北帝國大學教授現臺灣總督府囑託小川尚義を首班として臺灣總督府法院通譯兼臺灣總督府囑託東方孝義臺灣總督府囑託黃銘銑同宮川重三郎雇李孝全同楊仁藩及故臺灣總督府屬岩崎敬太郎の諸員なり

昭和十三年三月

臺灣總督府